



データで見る

高校生の今

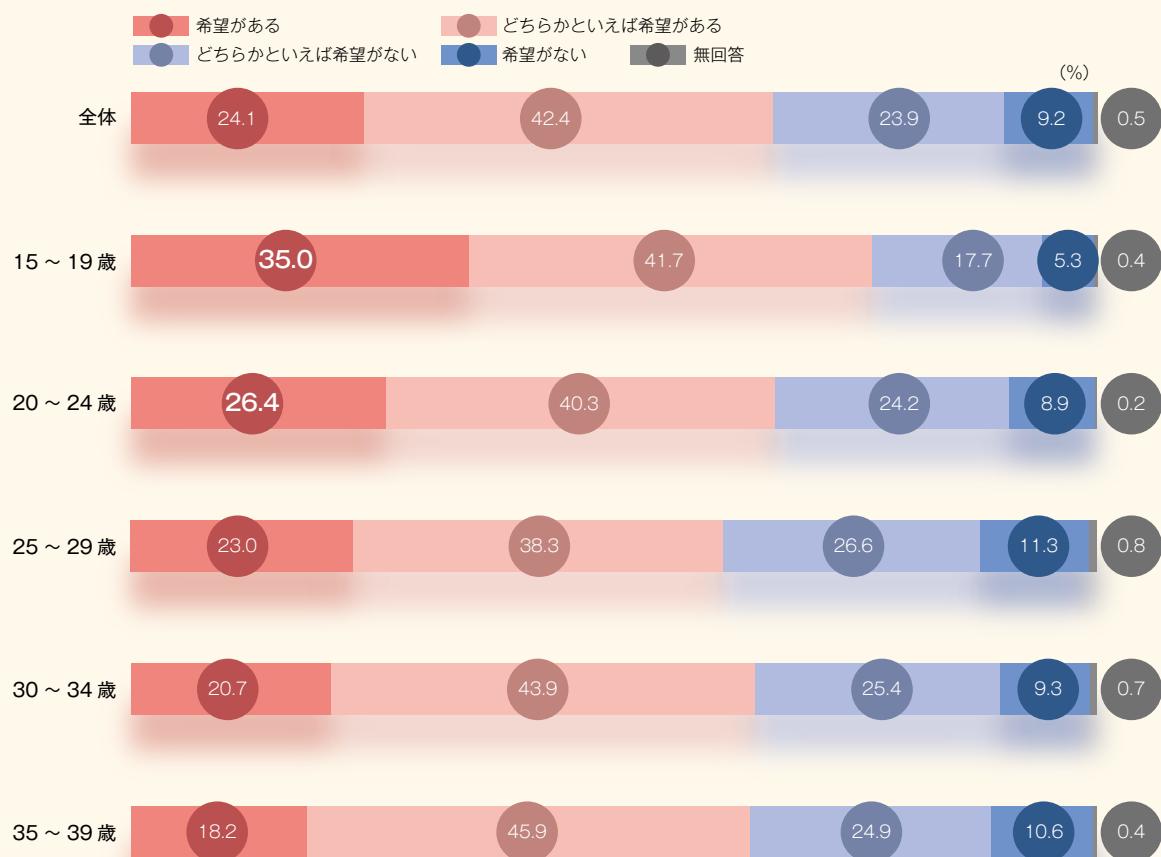
12



希望がしほむ20歳の壁

高校生世代を含む15～19歳の35.0%が「将来に希望がある」と答える一方で、20～24歳では26.4%と8.6ポイント減少。この下がり幅は全世代の中で最も大きく、高校から大学・社会への移行期に希望が急速にしほむ様子が見て取れる。多様な進路の可能性を前に迷いや不安が高まるこの時期、大学生活で希望を再構築できる仕組みづくりが重要だろう。^④

「自分の将来について明るい希望がある」と思う
子ども・若者の割合



出典：子ども家庭庁「子ども・若者の意識と生活に関する調査」（2022年度）p95 図表2-2-5-1-2